

ECSS Lausanne 2026 における日本体力医学会・ECSS 交流シンポジウムの開催報告

2026 年 7 月 8 日、スイス・ローザンヌで開催された 31st European College of Sport Science (ECSS) Annual Congress において、日本体力医学会 (JSPFSM) と ECSS による Exchange Symposium 「Children's physical fitness in a changing world: Tracking trends in the era of inactivity and climate change」が開催されました。

現在、子どもの身体活動不足は世界的な課題となっており、多くの子ども・青少年が推奨される身体活動量を満たしていないことが報告されています。さらに近年では、気候変動に伴う気温上昇や暑熱環境の深刻化が、子どもの身体不活動に一層拍車をかける可能性が懸念されています。こうした背景を踏まえ、変化する社会・環境の中で子どもの身体活動や体力をどのように維持・向上させていくかを考えることを目的として、本シンポジウムが開催されました。座長は、城所哲宏准教授（日本体育大学）と Nicolas Place 准教授（University of Lausanne）が務め、日本体力医学会側から城所准教授と鳥取伸彬准教授（兵庫教育大学）の 2 名、ECSS 側から Shawnda A. Morrison 博士（University of Ljubljana, Slovenia）の 1 名、計 3 名の演者による発表が行われました。

まず、Morrison 博士から、スロベニアにおける長期的な体力モニタリングと、気候変動下において子どもの体力を維持する重要性について発表がありました。続いて、城所准教授から、日本の約 60 年間にわたる体力・運動能力調査をもとに、子どもの体力の長期的変化とその背景要因について紹介されました。最後に、鳥取准教授から、COVID-19 パンデミック下での介入研究の成果を踏まえ、変化する社会環境の中で子どもの身体活動や体力を維持・向上させるための実践的な方策が示されました。当日は約 100 名の参加者が聴講し、総合討論においても活発な議論が行われました。

このシンポジウムは、研究成果を発信するだけでなく、日本体力医学会と ECSS の研究者が互いの知見を共有し、新たな研究交流や国際共同研究につなげることも重要な目的としています。今回のシンポジウムをきっかけとして、今後の共同研究や研究交流に向けた意見交換も行われました。



シンポジウム終了後の記念写真。左から、Nicolas Place 教授、鳥取伸彬准教授、Shawnda A. Morrison 博士、城所哲宏准教授、永富良一理事長。

本シンポジウムの詳細は、以下の URL からご確認ください（アクセス日：2026 年 8 月 20 日）。

https://www.ecss2006.com/ASP/CONGRESS/TOOLS/Scientific_Programme/Session_Data_2024.asp?myTitleShort=IS-MH05